建友会報

発行所
建友会本部
古川市泉ヶ池25（〒989－61）
宮城県古川工業高校建築科内
（TEL 02292－②－3166）
発行人　桜田　国男
編集人　菊池　　謙

無限の発展を願って

「建友会」発足す

千百の健児の連帯めざし

建築科卒業生をあまねく結集して、その親睦、互助組織を作ろうとする動きは従来からあったがこの数年来その気運は急速に昂まって、五月には建築科卒業生の集い「建友会」設立発起人会が結成され、設立趣意書が発表された。これを受けて母校建友会事務局は会長の候補者を検討し、桜田国男氏に白羽の矢をたて、承諾を得、副会長、監事などの幹部役員、各回クラス会幹事の人選に入り、別面所載のようにそのメンバーを会長の指名により決定した。なおこれら人選に関しては、広く全卒業生を集めた、大会席上選出すべき性質のものであるが、内輪の組織でもあり、むしろ運営面において会員諸氏の協力、助言によりその成果をあげることが先決という論が大勢を占めて一応この態勢でスタートするものである。いずれにせよ待望の組織「建友会」はここに設立を見た。

昭和十九年三月、本校は前身であった古川商業学校から、はじめて土木、建築の二科をおく工業学校に転換され、工業教育への道を歩むこととなった。そして昭和二十三年三月、建築科は二十七名の第一回卒業生を世に送り、あくる二十四年は新制高校への移行にともない、旧制十五名、新制工高第一回二十三名の卒業生を出し、以来、本年三月の第二十四回卒業生に至る総計一、一一七名を学窓から送り出した。

この間、新しい学科の新設も進んで、現在全日制、定時制のすべての卒業生数は実に六、一七六名を算するに至り、古川工高同窓会は名実共に大世帯となった。

建友会の同窓会における位置づけについては、いろいろと論のある所であるが、

①六千名の大世帯を支えるべく同窓会と会員間の連携、協力体制には限界があるのではないか。

②従って各学科としても同窓会に対する強力な支援体制が必要とされる時期にさしかかっている。

③各学科は、その専門性・職域における卒業生の集中性などから、それなりの独自な活動も必要となってこよう。

④これらの帰結として、本校同窓会は強力な背景を得て、一段と活動のレベルアップが可能である。

建友会はその問題解決への一つの試金石として、まさにうぶ声をあげた訳であり、その設立は大方の諒解を得られるものと思われる。

当面「建友会」の事業としては㊀会報の発行㊁名簿の発行及び㊂慶弔（特に弔を中心として）を見こんでおり、なかでも㊁の名簿印刷については、その完全な補完に最大の力を入れている。これは会の目的からしても基礎的資料であることから、事務局は会員の絶大なる協力を要請している。

若干の事業所単位の支部も、六月に菊池科長が上京の折にその結成を見、これが全国的な波及が望まれているが、各会社、事業所における先輩会員の援助が期待されている。（支部紹介は次号）

会の成否については、あくまで一人一人の会員の自覚と協力であり、これなくしては画餅に帰してしまうわけであるが、これまで事務局に寄せられた多数の先輩会員諸氏の激励、喜びの声から、みてその成功が期待され、堅実な発展が予想されている。

初代会長に

桜田国男

初代会長の大役は、工業第一回の卒業生である桜田国男氏にきまった。現在、氏は仙台にあって桜田建築設計事務所長として重きをなしている方である。

本来ならば総会等を開催して人選すべきであったが、多忙なる同窓生各位の現況から、設立後の会務を見るのに、もっとも便利な仙台に在住される大先輩として、事務局にて内定、懇望のうえ、快諾を得たものである。

なお副会長には、古川市役所建設課長補佐の千葉五郎氏〈工1〉と村田工務所社長の村田恭一氏〈工高3〉、監事には市内前田町にて商業を営まれる新田繁治氏〈工高1〉、市内中里にて建設業を営む仙北建設社長高橋孝氏〈工高8〉が、それぞれ会長より任命され幹部役員の態勢が整えられた。

「建友会報」発刊のごあいさつ

建友会々長

桜田国男

どこの学校にも卒業生の親睦と相互扶助ならびに生活向上と母校の発展を側面から後援するための「同窓会」というものが組織されております。

わが古川工業高校も昭和十九年四月に建築科、土木科の両科が開設されてから実に二十八年、卒業生も一、一一七名となり、業界の各分野で「古川工高」の優秀さを喧伝されておりますことは欣快の至りでございます。

しかしながら今日まで、これら卒業同窓生の連帯と互助互恵を目的とした、いわゆる「同窓会」が組織されていなかったことは誠に不本意ながら残念なことでございました。

これがため母校を中心として卒業生有志が相寄り「建築科卒業生のつどい」として先輩、後輩のいっそうの連帯を深め、われわれに課されている任務の重大さを認識して新らしい時代に生きる技術者として大同団結してその使命を全うするために、このたび「建友会」の名称で設立発足することになりました。

この「建友会」の事業の一つとして会員相互間のコミュニケーションの場として「会報」を発行することになり、ここに創刊の運びに至りましたことはご同慶の至りでございます。

この「建友会」設立につきましては特に母校の、菊池　謙先生のご奔走、ご苦労を煩らわし終始一貫その設立発足にご献身された賜ものでございまして、そのご労苦に対し紙上で感謝申しあげ厚く御礼を申しあげます。

また、この「建友会」の初代会長に不肖私が推されましたが、これは私が第一回卒業生であるという敬老的ご配慮によるもので会長という重責を全うし得るかどうかその才能の不足をかこつものでございます。

これらの点は卒業生各位のあたたかいご支援、ご協力によってカバーしていただくようお願い申しあげます。

この会報は創刊号でございますのでいろいろ内容や編集などの点でご不備も多々あることと存じますが、これらは号を逐って各位のご意見、アイデアによって解決されてゆくものと思います。

会報創刊に当たりごあいさつを申し述べますとともに、母校のご発展、卒業生各位のご隆昌とご健勝をお祈りし、あわせて今後のご指導、ご協力をお願い申しあげます。

（工業第一回卒業）

呼びかけにこたえよ

学校長　二宮善太郎
〈顧　問〉

このたび建築科卒業生のつどい「建友会」が、熱心なる関係者の努力によって設立を見たことは、まことに敬服に値することであり創立四十周年を目前にして感慨ふかいものを感じるものである。

工業学校に転換してからはや二十八年余を経たが、この間学校充実のために粒々辛苦された職員や地域の有志の方々のおかげで、今や質の面でも形の上でも飛躍的発展をとげ、年を逐ってつみあげられた伝統を背景にして、現在では県下有数の最大規模を誇る名門校としての偉容をあらわしている。

工業学校に転換したとき、はじめて置かれた学科は土木、建築の二学科であったが、創設の頃の職員、生徒の苦労は筆舌に表わされないものがあった訳で、今でも当時の苦労にまつわるエピソードをしばしば耳にするところである。

当時巣立って行った卒業生の諸君の前には、敗戦後の混乱から生じた不況と、伝統の浅さから来る就職難がもろに立ちはだかっていたのではないかと想像される。

たとえば、建築科の卒業生として本来希望していた建設業界に職をうることは、極めて困難であって、ちなみに工業第一回の例をひけば、二十七名の卒業生中、建設業界に就職し得たものは僅かに六名。この数字はその辺の事実を雄弁に物語っている。そしてこの傾向は以後もなお暫く続くのである。困難はそれだけではない。職場における彼らにとって、無名の学校の出身者であり、同窓の先輩がいないということで、極めて肩身のせまい思いをしたであろうことは想像に難くない。しかし彼らは懸命にその青春を賭していったに違いない。

しかし彼らはいまその代価を受けとり始めている。全国各地のそれぞれの職域において今や重鎮・中堅の立場にある。

時の移ろいは、母校をして伝統の年輪を装わしめ、彼らも又不動の名声を勝ち得た。彼らこそまさしくパイオニアと称さるべきであろう。

建友会の目的に、「連帯と互助互恵」をもって「大同団結」し、その効果として会員各自の「無限の力量の発揮」をうたっている。これはかつての血の出るような青春の体験からくる切実なる呼びかけであり、後輩に対する暖い抱擁の精神の具現であり、そこには限りない愛情のほとばしりを見る。

しかし後から続くものには、彼らの遺産を浪費することは許されない。甘えることなくこの「連帯」の意味する重みを噛みしめ、新しい伝統を積み上げる責務がある。かくして新しい時代に息吹く本校建築科出身の技術者集団が更に前進を遂げる一翼を担うことができるのだと思う。

進め！「建友会」

＝現校長紹介＝

四十六年四月着任。栗原郡金成町出身。築館—米沢高工（現山形大）卒。戦時中技術将校。教職歴は築高・若柳高などを経て築高教頭・鶯沢工高校長から本校へ。

建友会設立趣意書

母校、宮城県古川工業高等学校建築科は、創設以来二十有八年。この間、世に送った卒業生は実に一、一一七名を数うるに到り、益々発展を遂げつつあることは洵に同慶にたえません。

時下建設産業は国土建設の重要なる機軸産業として、大きく国内産業をリードしており、更にその発展が期待されていますが一方各業界において、建築技術者をはじめとし、各部門において活躍している我々に担わされている任務の重大さを思うときすべからく心を昂揚し、益々研鑽をかさねて、新しい時代に生きるための資質の探究に努めるべきでありましょう。

さいわい、我らにはすでに同じ道を歩む幾多の先輩あり、はた又陸続として来る後輩があります。

しかも建築科創立三十周年も目前、時は正に熟しております我々は母校建築科を核として先輩、後輩の一層の連帯を深め、互助互恵の精神をもって大同団結を遂げ、その力量を一人一人の無限なる発展の原動力たらしめることを願い、ここに宮城県古川工業高等学校建築科卒業生のつどい〝建友会〟を設立するものであります。

昭和四十七年五月

宮城県古川工業高校
建築科卒業生の会
「建友会」設立発起人
代表
桜田国男〈工1〉
千葉五郎〈工1〉
村田恭一〈工高3〉
新田繁治〈工高1〉
高橋　孝〈工高8〉

建築科同窓各位

建友会会則

第一条（名称）
本会は建友会と称し事務局を母校建築科におく

第二条（会員）
本会は母校建築科卒業生および建築科の現・旧職員をもって組織する。

第三条（支部）
本会には運営の便宜のため事業所別支部ならびに地域別支部・クラス会を設けることができる。

第四条（目的）
本会は母校建築科を核として会員相互の連帯を深め互恵互助の精神をもって大同団結し会員各自の力量の無限なる発展の原動力たらしめることを目的とする。

第五条（事業）
(1)会員相互間の密接なる連絡提携
(2)会報の発行
(3)会員名簿の発行
(4)慶弔
(5)その他必要なる事業

第六条（役員）
(1)会長　一名
(2)副会長　二名
(3)監事　二名
(4)支部長（若干名）
(5)幹事（若干名）
(6)事務局長（母校科長）
(7)顧問（若干名）

第七条（会合）
本会の会合は会長が必要と認めたときこれを召集する。

第八条（会計）
本会の経費は終身会費を会員より徴収してこれにあてる。

第九条（監査）
本会の収支は会長の指示によって行ない毎年三月末日監査を受けねばならない。
監査報告は翌年発行の会報によって会員に周知させるものとする

◇　◇　◇

この会則は昭和四十七年五月一日より施行する

＊お知らせ

◆終身会費は当面一、〇〇〇円といたします。各方面から年一、〇〇〇円くらいは徴収したら、という意見も多いのですが事務的にかなりはん雑ですし、要は集まらねば意味がありません。

会員から一度に徴収できれば、百万円くらいとなり、利子収入だけでも助かるのですが、実際には仲々望めないと思われます。

従って年度毎の経費約十万円くらい（一〇〇人分）を目標にしていきたいと思っています。いくいくは確乎たる基盤を作るべく、資金調達のアイデアを会員各位から求めて「安定成長」を得たいと念じております。

会費のその他の払い込みは、同封の振替用紙を御利用下さい。（振替口座仙台一八三四七）手数料は不要です。念のため。

●会社訪問（関東方面）
菊池科長（6／7〜15）
訪問先（主なるもののみ）
和同建設㈱・フジタ工業㈱・共立建設㈱・東急建設㈱・住宅公団・完全防水㈱・ヤハタ鋼機㈱・田中土建工業㈱・飛島建設㈱・前田建設工業㈱・大末建設㈱・清水建設㈱・㈱長岡組・岡本巧業㈱・㈱不動組・㈱内野工務店・㈱神尾木工場・高砂空調㈱・木田建業㈱・日東建設㈱・鹿島建設㈱・住友建設㈱・㈱浅沼組・鈴縫工業㈱・常盤開発㈱・㈱福田組

新日本製鉄株式会社委託加工工場
ヤハタ鋼機株式会社
代表取締役　中川金彦

工事部　野田次雄〈工高17〉
営業部　桜井英雄〈工高18〉
設計部　曽根幹雄〈工高18〉
〃　高橋喜博〈工高24〉

本社・東京都千代田区神田小川町3－6
日本分譲住宅会館5F
TEL　(03) 293－1201（代表）